

■「親守詩えひめ大会」に愛媛銀行が助成 親子の絆を俳句や短歌でつづる「親守詩（おやもりうた）」の第1回えひめ大会を支援しようとして、愛媛銀行（松山市）は同大会実行委員会に10万円を助成した。

子供が親をテーマにつくる俳句「親守詩」と、親が下の句を付けた短歌「親子の詩」を募集し、県内から約3200作品が寄せられた。

家族の絆 取り戻せ えひめ親守詩大会



記念講演で「親学」の普及を訴える高橋教授—松山市

親子の交流をつづった俳句や短歌を表彰し、家族のあり方や教育について考える「第1回えひめ親守詩大会」が23日、松山市の青少年センターで開かれ、愛媛県宇和島市立三間小学校、6年

年の信藤倫太郎君が松山市長賞に輝いた。

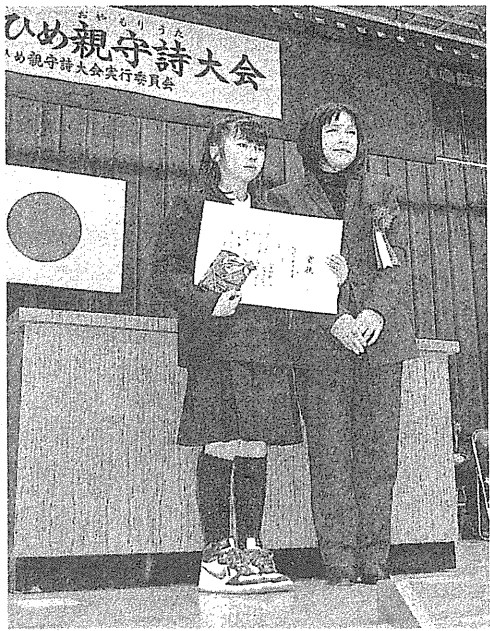
親守詩は子供が五・七・五の上の句、親が七・七の下の句を作り、互いの愛情や感謝を表現する短歌で、同県から全国に広がっている。今回、初めて県内で募集し、約3200作品が集まった。

会場には家族連れなど約370人が参加。「お父さん、そろそろ帰って、こないかな、グロームもって庭で待って」で市長賞に選ばれた信藤君をはじめ、計約130人の児童らが表彰された。

続いて明星大学（東京都）の高橋史朗教授が記念講演を行い、「親子愛が美しい日本を支えてきた」と指摘。「教育再生は家族の絆を取り戻すことから始まる」と強調し、親としての姿勢や資質を学ぶ「親学」の普及を呼びかけた。

同大会実行委員会は「親学」の学習会を4月27日、同市の権神社会館で行う。申し込みは同20日まで。問い合わせは同委員会（☎090・8971・7721）。

産経新聞 2/20
↓
2/24



賞状を手にする山本さん（松山市の市青少年センターで）

小4年の山本姫歌さん（10）の『「今日あのおね」』で始まる家族で「ばんごはん」が、松山市教育長賞に輝いた。

ほかに「お父さん、そろそろ帰って、こないかな、グロームもって、庭で待って」（松山市長賞）、「1日の、最初に母の、声ひびく」（愛媛銀行賞）などの作品も表彰された。

賞状を受け取った山本さんは「晩ご飯の時に学校での出来事を両親に話します。悲しいことがあっても、お話しすると元気になるます」と話していた。

読売新聞 2/24

新聞が報じた 親守詩大会

愛媛新聞 2/24

親守詩優秀作 松山で表彰式

公募に3261点

親子が互いを思う気持ち、を俳句や短歌に詠む「親守詩」の優秀作表彰式が23日、松山市築山町の市青少年センターで開かれた。

親守詩は子守歌から生まれた親子による交流詩で、子どもが作る俳句と親子合作の短歌を、実行委員会が公募した。

寄せられた3261点が審査され、新居浜市立角野

親子の絆 句でつなぐ

松山 親守詩表彰や講演

親や子への日常生活、う「第1回えひめ親守詩（おやもりうた）」大を考えた。



記念講演する高橋教授

会」が23日、松山市築山町の市青少年センターであり、参加者は講演やシンポジウムを通して親子の絆の在り方を考えた。

実行委員会（青井美智子委員長）が主催。明星大教育学部の高橋史朗教授が記念講演し、子どもたちが親子関係をテーマに書いた作文などを紹介しながら「子どもの幸福は心の絆にある。子どもと親が互いに心を通わせることが大切」と強調した。

大会では、県内の小中学生を中心に公募した親守詩の表彰式

もあり、後半部分を親が読む形式で宇和島市三間小6年信藤倫太郎君の作品「お父さん、そろそろ帰って、こないかな、グロームもって庭で待って」が松山市長賞に選ばれた。

「子どもを育てる家庭・学校・社会」と題したシンポジウムも行われた。

（長谷川悠介）